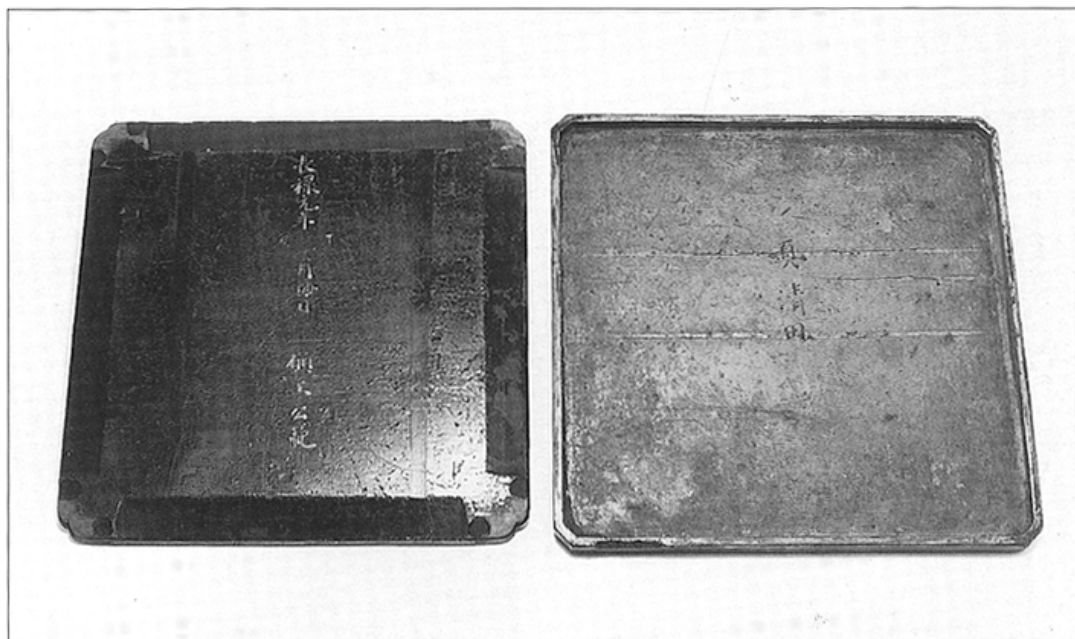




重要文化財 御膳台盤 真清田神社宝物館蔵

見る程に使いこまれた色あいと温かい手ざわりを感じさせ、人の心を魅了する黒の下地に朱漆の上塗りをされた木製の器物を俗に根来塗りといい古くから珍重されてきた。

紀州の根来寺が、その製法の発祥の地とされるが、天正13年の秀吉の根来征伐で一山ことごとく焼亡し、文書や記録も一切が失われ、「まぼろしの根来」とも称されて全貌は不明である。

広島の大島神社に伝わる国宝の劔太刀箱が製作年〈寿永2年（1181）〉銘の明確な現存する最古のものである。

当社には長禄元年（1457）銘のある入角折敷・角切折敷20枚、檠子（社伝は甘杯器）5枚を伝える。

この年は享徳の火災で焼失した社殿が造営され、遷宮が行われた事から神饌具として新調寄進されたものと思われる。

平成元年、同じく伝わる銅鉢・銅皿と共に重要文化財の指定をうけた。

（真清田神社宝物館 主任 藤田昌宏）

目 次

●平成5年度歴史民俗部門研修会報告	2
●平成5年度自然科学部門研修会報告	3
●平成5年度美術部門研修会報告	4
●新規加盟館紹介	5

平成5年度

歴史民俗部門研修会報告

愛知県博物館協会歴史民俗部門の研修会が、平成6年2月9日(水)、熱田神宮龍影閣において開催されましたので、その概要をご報告します。今回は刀剣についての研修であり、以下の日程で行われました。

10:30~10:35 開会あいさつ

愛知県博物館協会会長 山田敬二氏

熱田神宮宝物館館長 岡地幸雄氏

10:35~12:00 講義「刀剣雑考」

13:00~14:30 実習「刀剣の取扱い」

(講義、実習とも)

講師 文化庁刀剣登録審査員 野々山 修 先生

14:35~15:10 熱田神宮宝物館見学

定員20名のところ31名の参加申込みがありました。申込み者全員が参加できるよう、ご配慮いただいたとのことです。

野々山先生のご講義は、刀剣についての我々の常識をくつがえすような愉快なものでした。

たとえば下緒は、時代劇をよく見ていると、刀掛に飾ってあるときと腰に下げているときでは結び方が違って、実際に結び直したら先生でも何十分もかかるはずのものが、次の場面で早変わりしていることがあるそうです。刀の差し方も、映画やテレビで我々が見慣れた身体の横に差しやり方は寛文以降のもので、それ以前は身体の前に差していたとのこと。昔は格好はよくないけれど、自分の刀で自分を傷つけることのない実用的な差し方だったのが、戦が少なくなるにつれて、次第に武器としての意義が薄れてゆき、お飾りでしかなくなっていったわけです。



このほか刀の形や鍔、目釘穴、鞘の色、やすり目、小さ刀のことなど、質疑応答を交えながら刀剣全般に亘って詳しい説明をしてくださり、刀の様式の変遷が時代の必然性からきていることが、よくわかりました。

午後からは取扱いの実習。みな真剣な面持ちで刀の油をふき取る和紙をもみほぐしながら、まずは先生の説明に聴き入りました。そして宝物館の内田さんが宿直の夜鍋仕事で竹を削って作ってくださった目釘抜きを、各自一本ずついただき、刀を手にして、いざ実践。「扱いについては武士の魂と思って接すれば、8割方OK」「大事大事に扱う」という先生のお言葉を肝に銘じて、刀身を柄からはずして、油を塗り直します。やっていると無用に臆病になっている自分に気がつき、せっかく先生にじかに教えていただける機会なのにこれでは勿体ない、真剣な態度があれば何も怖がることはない、と気を引締めて取り組みました。実習にあたっては野々山先生だけでなく、宝物館の方々や熱田神宮刀剣保存会の森島定雄先生にも丁寧なご指導をいただき、また隣合った参加者の方ともわからないところを教え合ったりと、緊張しながらも和やかな雰囲気の中で、何とか無事に手入れを終えることができました。



不勉強な私にとって、刀とは、それ自身が持つ凶器性からくる恐怖感と、じっとみつめているとあまりの奇麗さに吸い込まれてしまいそうな狂気の感とが入りまじって、見るのも触るのも怖いという美術品でした。昔の人には実用的だったものが、今の私には非現実的なものとして映り、敬遠していたのです。これは多くの方々にも共通する感覚ではないでしょうか。しかし、研修に参加させていただき、少し肩の力を抜くことができました。

絵画はできるだけそっとしておき、空気や光、人手に触れさせないことが第一なのに比べて、刀剣は小まめに手をかけてやるほど良く、美術品をお預りする学芸員冥利に尽きることを実感。これからは所蔵品の手入れも自分でやってみようと思えるようになりました。

このあと宝物館で「鏡の文様」展を見学し、銅鏡の文様の変遷を楽しませていただきました。

主催者の方々のご尽力に感謝いたします。

(文責 古川美術館 松尾有華)

平成5年度

自然科学部門研修会報告

平成6年2月17日(水)名古屋市科学館において、愛知県博物館協会自然科学部門研修会が開催されました。参加者は、自然科学系だけでなく、歴史民俗系博物館や、さらに愛知県教育委員会の後援を得て、学校関係からの参加者もあり、18名となりました。

「自然科学部門研修会の講師を行ってみて…」

名古屋市科学館 学芸員 西本昌司

今回、自然科学部門研修会の講師を依頼されたとき、正直言って、私のようなまだ駆け出しの学芸員にこのような講師ができるだろうかと躊躇してしまいました。しかし、講師を実際に現場で活躍する学芸員にお願いし、各館に戻られても実際に役立てるような実験を実施したいという方針に賛同できましたし、また、名古屋市科学館にも地学の学芸員がいるということを知っていただきたいという希望から、引き受けることにしました。

内容は、小学生向けの「石のはんこ」、中学生向けの「水晶とガラスの見分け方」と「X面を探せ～左水晶と右水晶」、高校生向けの「蛍光X線で調べる環境汚染」を取り上げました。これまで名古屋市科学館の「教室」で私が講師として実施したもの、あるいは検討中のものです。

「石のはんこ」は、子供たちにたいへん好評だったもので、大理石を塩酸で溶かしてはんこを作る実験です。大理石の研磨面に油性インキで絵や字を書くと、その部分だけ溶けずに残り、はんこができます。子供が夢中になれるものは大人にも楽しんでいただけるようで、研修会終了後もはんこ作りを続ける方がいらしていました。

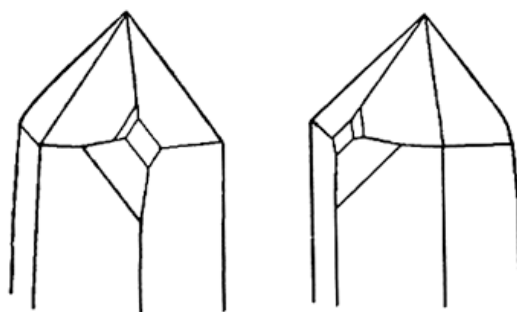


「石のはんこ」の作品例

「水晶とガラスの見分け方」は、立体映画を観賞するときに使う偏光フィルムを用いて鑑定する方法です。最近の水晶ブームのおかげで、女の子に受けた内容です。

「X面を探せ～左水晶と右水晶」は、水晶に左利きと右利きがあるという自然界の意外な事実を教えるため行ったものです。左水晶と右水晶を見分けるポイントは、X面と呼ばれるとても小さな結晶面が現れる位置です。このX面を探すことで、水晶の結晶をじっくり観察させることができました。

「蛍光X線で調べる環境汚染」は、名古屋市科学館に展示してある蛍光X線分析装置で、簡単な環境汚染調査ができないものか、実験した結果を報告したものです。時間の関係で、実際に機器に触れていただくことはできませんでしたが、大気汚染等が最新の機器を使用することにより、簡単に調べられることを示しました。(詳しくは「名古屋市科学館紀要第20号」を参照してください。)



右水晶

左水晶

私は地球科学のなかでも特に岩石・鉱物学が専門です。すから、いわゆる環境問題については素人でした。しかし、名古屋市科学館のような社会教育施設で環境教育を念頭に置かないわけにはいきません。環境問題は、科学領域だけでなく、社会問題に関わることでありますから、科学、特に、環境教育と関わりの深い地域分野では、どのようにして環境教育を実施したらよいのか教育者を悩ましています。

文部省の学習指導要領を見ると、実験・観察を行い科学的な自然観を育成することを目標のひとつとして掲げています。いわゆる環境問題について学習することだけが環境教育ではなく、自然のしくみを教え、自然に親しませることが環境教育であると考えられます。ですから、特に小・中学生のうちは、今回紹介したような実験でさえも環境教育につながると、私は考えています。

今回紹介した内容が各館での教育普及活動に少しでも参考になれば幸いです。

平成5年度

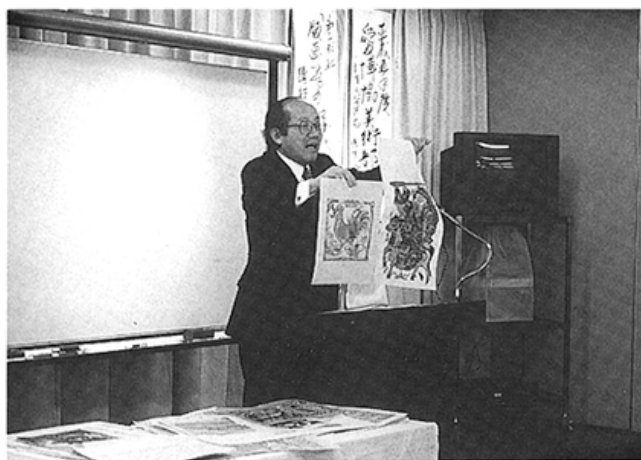
美術部門研修会報告

平成6年2月24日(金)、昭和美術館に於いて愛知県博物館協会美術部門研修会が開催されました。講師4名の4講義ということで、かなり時間に追われる形の研修となりましたが、参加者41名は、講師の方々から専門の有意義な講義を受けることができました。以下その内容を報告します。

1. 版画(木版)等の知識と取り扱い・実技

講師 須田敏夫氏(版画家・美術研究家)

版画とは何かということについて概論的にお話いただきました。版画が発達し、普及していくことによって人々にどのような役割を果たしていったのか、紙が豊富になり、また印刷技術とともに情報伝達経路が発達していくことによって手を貸している版画の位置を知りました。私たちににとって一番身近な版画の存在と言えば、年賀状でしょうか。年賀状にしろ浮世絵・地図などにしろ、版画には必ず実用的な意味がついてくるのだそうです。版木をいくつか用意されていたのですが、時間の都合上全員が刷ることができなかったことが少し心残りです。



第1教科 須田敏夫氏

2. ポスターの意義と構図 PartII

実習(ポスターの作成・評価)

講師 岩田明氏(二科会)

同じ構図の作品でも色に変化をつけることによって受ける印象がかなり違ってきます。それは、本当に微妙な色の違いで様々な印象を与えることができるということです。ポスターなど作成する場合、写真や絵・文字が互いに生きる作用をするように心がけなくてはなりません。このことを頭に置きながら実際に色紙・チラシ等を用いて限られた時間の中で参加者は懸命に

ポスター作りを行いました。そして、持ち寄ったポスターについて、それぞれに作成した人のジレンマを感じながらも厳しい講評となりました。



第2教科 岩田明氏 ポスター作成実習風景

3. 具象画家(仏)ベルナール・ビュッフェの魅力及び作品について

講師 安達めぐみ氏(ベルナール・ビュッフェ美術館学芸員)

ベルナール・ビュッフェの育ってきた環境や背景を、またスライドによってそれぞれの絵の描かれた年などわかりやすく解説していただきました。ビュッフェが「人間は嫌いだ」と言い放った裏で、絵に表現されているものを見ると、その言葉が全くの嘘としか思えないような、また逆に真実であるかもしれないという印象を受けます。キャンバスが買えずシートに描いたことや、ルーブル美術館に絵を観るためではなく暖をとりに通ったというエピソードから当時のビュッフェの心持ちを考え、自身の美術館を持つという本人の意思とは無関係ですが、今の気持ちを考えずにはいられません。この講義を聞き、美術館に行ってみたい、ビュッフェの絵が観てみたいと誰もが思ったのではないのでしょうか。



第3教科 安達めぐみ氏
(ベルナール・ビュッフェ美術館・学芸員)
講義風景

4. 絵画、工芸品、貴金属製品等の虫、黴の駆除作業の流れ

少量文化財ガス燻蒸作業の検証（事例）

講師 鈴木孝夫氏（中部資材株式会社課長）

最初にスライドで、家屋を覆ったところなど燻蒸を行っていく過程を説明していただいてから、会場を外へと移し、実際に今、中では燻蒸を行っている最中だという移動燻蒸車の回りでの講義となりました。博物館・美術館等施設において資料を収集し保存していくという点で、害虫などの防止対策は必ずついて回るものです。そういった中で防虫作業燻蒸を仕事としている方々の影の力があってこそ成立しているのだと、作業過程を通じて感じます。燻蒸に伴う全ての器具機材がそろっていて、何処でも燻蒸をすることができるという利点を持つ移動燻蒸車ではありますが、その気になるお値段はといいますと、内容によって異なりますが15万円程度なのだそうです。



第4教科 鈴木孝夫氏（中部資材㈱）
移動燻蒸車説明風景

以上、とりとめのめない文章ですがお許しをいただいて研修会報告を終わります。

この研修会のために、ご準備ご配慮していただきました方々に感謝申し上げます。

（文責 知立市歴史民俗資料館 学芸員 近藤文枝）



新規加盟館紹介

平成5年度に当協会へ加盟されました館の概要を、ここに紹介します。

津島地域文化広場児童科学館

- 所在地 〒496 津島市大字津島字南新開84番地
電話(0567)24-8743 FAX(0567)24-8743
- 交通 名鉄バス名古屋津島線日光停留所下車徒歩約10分
駐車場 250台（無料）
- 沿革 津島地域文化広場は、近年、多くの方々から余暇利用という面からスポーツと文化の拠点として、複合的な施設を海部郡の中心地である津島市に整備して欲しいという要望により、津島市を東西に分ける日光川の河畔のもと、昭和49年頃から都市公園として整備された東公園の中に、地域文化広場として2.5haの用地を確保し、平成元年10月から津島市と愛知県とで共同工事が始まって、平成3年6月に児童科学館・総合プール・はなのき広場等を含めた複合施設が開館され多くの人達に利用されている。
- 施設 鉄筋コンクリート造2階建
建設面積 1,022㎡ 延床面積 1,861㎡
- 休館日 毎週月曜日（月曜日が祝祭日のときは、開館します。）
年末年始12月29日～1月3日
- 開館 午前9時～午後5時
- 入館料 無 料
- プラネタリウム観覧料
大人210円、小人100円（20名以上の団体は半額）





佐織町歴史民俗資料室

所在地 〒496 海部郡佐織町大字諏訪字郷西456-1

佐織町中央公民館内

電話 (0567) 26-1123

交通 名古屋鉄道津島線藤浪駅下車徒歩約5分

駐車場 38台(無料)

沿革 佐織町歴史民俗資料室は町内に伝わるすぐれた文化遺産—歴史・民俗資料など—を収集・保存・展示し、これらの資料の保護に努めるとともに、これらの資料をもとに、広く町民の皆様に佐織町の歴史・民俗を知って頂くこと、昭和55年から収集をし始め、同年9月3日に開館しました。

施設 敷地 150㎡

鉄筋コンクリート建

展示室 110㎡ 収蔵庫 17㎡

開室 午前9時～午後5時

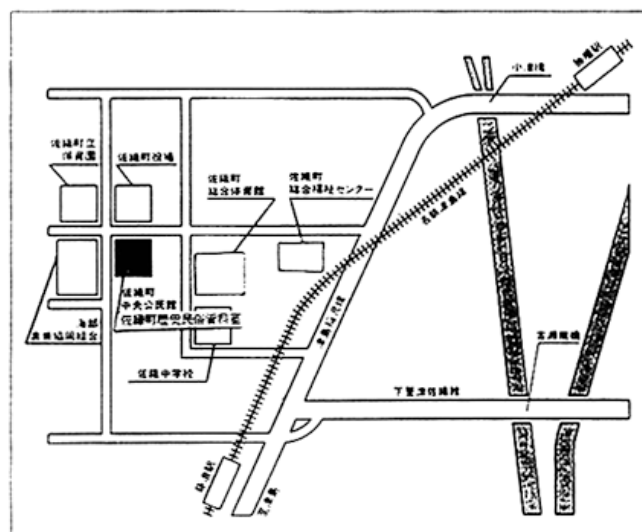


休室日 月曜日、祝祭日の翌日、12月28日～翌年1月4日

入室料 無料

特色 佐織町に伝わる歴史民俗資料を収集している、当歴史民俗資料室は、大きく歴史部門と民俗部門に分けることができる。歴史部門においては、町内で出土した遺物、瀬高・諸桑両廃寺の瓦、中世の山茶碗、近世文書、近代文書等を展示しております。中でも天保9年(1838)に尾張國海東郡諸桑村(現佐織町大字諸桑)から出土した古船の資料は町の文化財第1号に指定されている。

民俗部門においては町内の各家からよせられた多数の民具類を「あるく・はこぶ・あきなう」「たがやす」「うおとり」「つくる」「そめる・おる」「えんじる・あそぶ」「いのる」「つどう」「きる」「たべる」「すむ」というテーマに分類して展示している。特に「そめる・おる」のコーナーでは、かつて本町を中心に産出されていた“幻の縞”佐織縞や、佐織縞を織った織機等を展示している。



豊川閣寺寶館

所在地 〒442 豊川市豊川町1番地

電話 (05338) 5-2030

交通 J R飯田線豊川駅下車徒歩5分

名古屋鉄道豊川稲荷駅下車徒歩5分

東名高速道路豊川インターより約5分

駐車場 約1,000台(一部有料)



沿革 開創以来550余年を数える、曹洞宗、円福山豊川閣妙嚴寺の境内に寺寶館を建設し、当山ゆかりの宝物の数々をご信者、檀徒、市民の皆様にご覧いただくことは歴代住職の心願でありました。三十二世忍菰大和尚（先代住職）は客殿「千松殿」の3階に「温故倉」を設け、宝物の一部を展示して人々のご覧に供していました。

この度、福山諦法現住職の発願によって寺寶館の建設が具体化し、平成2年7月、境内「参籠堂」跡地において工事にとりかかり、同4年10月竣工。同年5月28日開館しました。以来お陰をもちまして、拝観者は今日までに5万人を超える賑わいをみせております。

（平成6年1月現在）

施設 地上2階鉄筋コンクリート造り、建坪1,702㎡
 展示室1 181㎡ 多目的ホール 272㎡
 展示室2 171㎡ 収蔵庫 181㎡
 展示室3 140㎡ 機械室 90㎡
 管理・応接室等 79㎡

開館 9:00～16:00（拝観受付は15:30まで）

休館日 なし（年中無休）

拝観料 一般 400円、大学・高校生 300円、中学・小学生 100円、[団体20名以上1割引]

特色 鎌倉時代の作で、国指定重要文化財「地蔵菩薩像」2軀、寺社建築史上に名を残す二代目立川和四郎富昌(1782～1856)とその弟子昌敬(1802～1863)の手になる欄間彫刻6点のほか、所蔵の宝物約170点を展示しています。

当寺寶館には豊川閣妙嚴寺のご信者、檀徒の皆様がたのご寄進による書画の軸物1,500点、古銅器置物・花入れ等500点、茶道具・陶磁器300点等の所蔵品があります。順次、これらを展示していく計画です。

今後は、文化の国際化がさらに進展するも

のと考えます。寺寶館では仏教文化を通しての国際交流に貢献すべく、これからも研究を継続してまいります。



はとギャラリー冬青書屋

所在地 〒445 西尾市本町14番地 (株)はと屋本社2階
 電話(0563) 56-7373

交通 名鉄蒲郡線西尾駅下車徒歩8分

沿革 平成4年7月、本社事務所並びに直売所を現在地に移転新築したのを機に、その2階をオープンギャラリーとした。

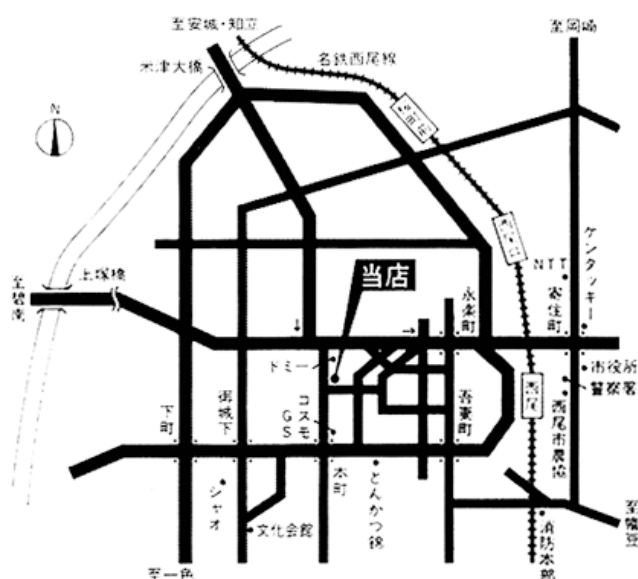
施設 敷地面積 1,860㎡
 建物 鉄骨2階建延 208㎡ 展示室68㎡
 収蔵庫 土蔵造2階建延50㎡ 2棟

開館 毎奇数月(1、3、5、7、9、11月)の第1又は第4週の金、土、日曜日の3日間(午後2時～5時まで)。但し、都合により変更することがあります。

入館料 無料

特色 先代鳥山幸一が生前蒐集した、各種趣味の資料、主として、鳩笛、鳩に関する全国の郷土玩具、三河の土人形(西尾在、鈴木三四郎作を含む)、全国趣味の宝船(版画)数百点(戦前から戦後にかけて)、全国趣味の年賀状(版画)数百点(昭和2年から19年)、全国趣味の手拭数百点(戦前から戦後にかけて)、その他趣味に関する文献資料等、その外当家代々伝わる民俗民具、明治初期の教科書や古書籍、以上を入れ替え展示します。

尚、歌舞伎有名役者の隈取り156点は、遺言により御園座演劇図書館（名古屋）に寄贈しましたが、随時お借りして展示しています。この中には、珍品として絹地でなく当三河地方特産のガラ紡でとった隈取りも58点含まれています。これは全国でもここしかないと思います。



お知らせ

1. 表紙絵募集について

当協会では、協会報「愛知の博物館」（当紙）の表紙絵を募集しています。当協会加盟館園の内で、収蔵品や展示概況、館の外形など特徴のあるものの掲載の希望がありましたらご応募下さい。

なお、次号No60は名古屋地区、No61は三河地区を予定しています。

- ①資格は当協会加盟館園に限ります。
- ②写真1葉（モノクロ、サービス版以上）
- ③タイトルとその説明文（250字前後）を付して下さい。（文責者名も明記）
- ④応募先及び問い合わせは熱田神宮宝物館武田まで。
- ⑤選定は実行委員会で行います。
- ⑥発表は掲載に替えます。

2. 広報活動について

愛知芸術文化センター内に、新聞・TV等25社による中部芸術文化記者クラブ（MACC）が設置されています。

下記により取材を受けることができます。博物館・美術館等の広報活動に是非活用下さい。

記

- ①取材日時 毎月20日午後3時から
（土・日にかかる場合は前日・前々日）
- ②場 所 中部芸術文化記者クラブ
（愛知芸術文化センター内、文化情報センター7階）
- ③被取材対象 人物系の美術館・博物館の活動に限る。
- ④持参資料 25部 写真はカラー25葉。
- ⑤その他 ◎出席は各館1名、各催物の直接担当者に限る。
◎文化情報センターへは、地下1階防災センターで入館証を受け取り入場のこと。

「愛知の博物館」No.59

発行日 平成6年3月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

TEL <0561> 84-7474

FAX <0561> 84-4932